

■ 第1回策定委員会 要旨

■日 時：平成28年9月21日（水） 13:30～15:30

■場 所：小国町役場大会議室

■出席者：

【策定委員】

町長 仁科 洋一（挨拶のみで退席）

副町長 山口 政幸

会計管理者 山口 英明

総務企画課長 後藤 和人

町民税務課長 仁科 清春

健康福祉課長 原田 千鶴子

産業振興課長 齋藤 勉

地域整備課長 井上 伊勢男

建設技術主幹 菅野 享一

訪問看護ステーション所長 伊藤 優子

介護老人保健施設事務長 木村 広英

【総務企画課】

企画財政主幹 佐藤 友春

財政担当主査 塚原 鉄也

政策企画担当係長 廣瀬 孝徳

主任 渡部 寿郎

主事 蛭原 紘子

【業務委託】

水野 紀秀（㈱シンクタンクみらい 取締役・主席研究員）

福室 由利佳（㈱シンクタンクみらい 主任研究員）

■資料説明

- (1) 次期総合センター整備構想について
- (2) 次期総合センター整備基本計画策定要領について
- (3) その他

■討議要旨

- (1) 次期総合センター整備構想について

委 員：次期センターは機能の複合化を図るという話だったが、保育園については想定
の延床面積に含まれているのか。

事務局：保育園は面積にはカウントしていない。様々な機能を検討する中では保育園についても視野に入れて検討していきたい。

委員：町で考える部分ではないのかもしれないが、高齢者が楽しむスペースのニーズが高いことを踏まえると、社会福祉協議会の今後の役割も検討する必要があるのではないか。社会福祉協議会の施設も老朽化しており現在の施設での活動の継続が難しいと思われる。次期センターに盛り込むべき機能として考える必要はないか。

事務局：この構想の策定段階では社会福祉協議会の機能までは含めて検討していないが、必要性について検討整理されれば今後は一つの機能の選択肢として検討することはあり得る。

委員：住民参加方法について。5年くらいのプロセスを経て次期センターを整備していく中で、策定段階から住民が運営主体となれるような組織づくりをしていくべきだという指摘があった。あゆ一むなどはまさに施設の検討段階から住民が参画した例であり、この点が最も重要だと思う。また、いずれ指定管理等で運営を委ねていくことを視野に入れれば、運営主体としての役割について、各課が持っている機能を改めて棚卸して議論する必要があるのではないか。

委員：現センターは拠点整備構想の中核施設として建設され、地域づくりの中核施設としての役割を担ってきた。次期センターは、人口減少が進む中で、これからの小国町のまちづくりを支える中心となる施設（小さな拠点）となるものだという認識で進めていくべきだと思う。

委員：昨年度まで過疎地有償運送について地域と話をしてきた担当としても、各地域とのアクセス手段を含めて次期センターの在り方を考えるという点は重要と考える。

委員：現センターがあまりにも小国町のまちづくりの象徴的な建物であったがゆえに、次期センターの位置づけや役割をどうしていくかが重要な課題であると認識している。これからのまちづくりの視座となるべきという次期センターの役割を考えると、周辺部と町中心部とのつながりや周辺都市と小国町との関わりという点も含めて次期センターの果たすべき機能を検討する必要がある。そういう視点で考えれば、周辺部にある廃校舎の利活用と中核施設としての次期センターの役割分担や連携が大きな課題ではないか。それぞれの地域において利活用がなかなか進まない廃校舎を今後どうしていくか個別に検討を進める中で、廃校が各地域の拠点となり、その地域拠点と次期センターが適切に機能分担をし、中核的な役割を次期センターが担うというようなイメージを、皆が納得できるようなイメージ図を作り上げていければいいと思う。なお、整備構想にあったセンターの4つの機能分担の中に「生涯学習センター」機能があったが、これに違和感を持った。基本構想の内容については今後再検討の余地があるのか。

建設用地が決定していない一方で、整備まで2年間というスケジュールは決まっているようなので、どの程度今後の当策定委員会の議論に委ねられているのか確認したい。

事務局：「生涯学習センター」としての機能とは、ひとつには文化センターとしての役割と捉えているが、各地域の拠点との機能分担も含め、次期センターの機能については今後さらに検討が必要であり、当委員会もちろん、住民を含めた委員会での意見も反映させるべきと考えている。また、場所が決まらなるとイメージ図も描けないので、土地の問題などもあるため難しい部分もあるが、場所については本年度議論を深めていきたいと考えている。

委員：策定委員会の議論がどの程度整備構想から立ち戻って議論できる余地があるのか、というところを確認したかった。整備構想を白紙に戻すような議論もあり得るのか。

事務局：まったく白紙に戻すということはありませんが、より具体的な機能であったり、あるいは構想に不足している機能であったりという点でご指摘をいただき議論を深めていただくことは十分に考えられる。

①次期センターの機能の在り方

委員：(町民が)自分たちが運営していくという意識がないと施設を作っても活用されない。そういう意識を町民にどう持ってもらうかが重要である。やはり町民が気軽に集まれる場所がコミュニティの維持には必要ではないか。場所については、アクセスの便が良い中心部がよいのか、自然が感じられる場所がいいのか、色々な考え方があろうが、そこに行けば町の情報が一元的に得られ、交流や憩いが得られるというような場所・施設がいいと思う。

委員：現センターは自分が小5の時にできた。子ども心ながらワクワクした覚えがある。あそこに行けば何かがあるというような印象だった。だからこそ、次期センターについても町民に同じように期待してもらえよう、場所も含めて町民が考えていけるようなワークショップを早く立ち上げるべきだと思う。

委員：現センターは「文化施設+保健施設」という役割が強かった。その後保健施設はできたので、その役割はいらなくなったと考えると、整備構想では次期センターは「多機能」型としていろいろな機能が盛り込まれているが、もっとシンプルでもいいのではないかと思う。個人的には、「総合文化センター+道の駅」というイメージがある。それ以上の様々な機能をたくさん盛り込んでしまって大丈夫なのか、本当にこの規模で実現できるのか。図書室などなくてもいいからもう少し機能を特化させた方がいいのではないか。

委員：保育園の老朽化が著しく、屋根も傷んでおり非常口もあかなくなっている。保育園の整備検討委員会を本年度立ち上げるべく準備をしているが、次期センタ

一の中に保育園の機能も含めて検討するのであれば、次期センターが整備されるまで、今の保育園をどうやって持たせていけばよいのかを考えていかなければならない。2年間かけて次期センターの基本設計を検討していくという話だったが、2～3年後に次期センターが完成するのは難しいと思うので、その辺の問題も含めて検討していくべき。

②住民参加と行政の役割について

委員：ワークショップや30人委員会の設置には異論はないが、様々な人を入れれば様々な意見が出てくる。ワークショップや委員会に参画する町民については、年齢層、地域性、業種等も十分考慮し、かつ役場の職員も地域住民として参画を図るような方法も考えるべきではないか。

委員：行政主体でまちづくりが進められてきたという小国町のこれまでの経緯を踏まえると、住民との話を繰り返しながら作っていくというのは望ましい姿であろうと思うが、まちづくりの方向性についてはある程度は行政が誘導するというか、導いていくべきものではないかと考えている。また場所の問題についても住民に委ねれば住民間で施設の引っ張り合いになる可能性がある。まずどういう機能が必要かを煮詰めたうえで、場所の話につなげていくべきではないか。

③次期センターの役割と整備の場所について

委員：新潟山形広域幹線道路のルート次第で場所は変わるのではないかと。場所の検討は、今年度中に新山道のルートがどの程度明らかになるのかによると思う。現実的には、現センター（町民グラウンド）を活用するのがよいと思う。

委員：場所が見定められないと住民との話も中途半端になる。場所の検討が一番大切ではないか。

(2) 次期総合センター整備基本計画策定要領について

委員：「山の暮らし伝承創造センター」とは「次期総合センター」のことか。いつからこういう名称になっているのか。

事務局：「次期総合センター」と訂正したい。

委員：住民参画を図る場合、意見を聞きっぱなしではだめであり、住民が主体的な役割を果たせるような体制を作ることが大切である。そこに意を尽くしてもらいたい。

事務局：今までの小国町のまちづくりの経緯をみると、具体的な整備計画の策定から住民参画を十分果たせた例がなかなかなかったが、今回は運営につなげられるような住民参画のあり方を考えていくべきだと考えている。